

海人

かいと

写真：唐桑の力キ養殖イカダの様子
唐桑名産「もまれ牡蠣」が生産される

当漁業士会は平成二年度に結成されて以来、平成二十八年度で二十六年目を迎えますが、東日本大震災により、全ての漁業者が生産基盤・生活基盤を失い、活動を縮小せざるを得ませんでした。

本会会員は震災直後から自らの生活再建と一刻も早い漁業生産の再開を目指し、国やボランティアの方々から多くの支援を受けながら浜の中心的な役割を果たしつつ、懸命に復旧作業に努めてきました。



ごあいさつ

宮城県漁業士会 会長 小野寺 芳浩

会員の皆様におかれましては、日頃から、浜の中核として、地域水産業の復旧・復興に励まれていることと存じます。また、本会の活動にご理解とご協力を頂いていることに対し厚くお礼申し上げます。

震災から六年が経過し、生産基盤の復旧整備が進み生産も本格化してきました。これに併せて、漁業士会の活動についても可能な範囲で活動を再開しました。一方で、漁業を取り巻く環境は厳しく、昨年を振り返りますと、八月には台風十号が気象庁の観測以来初となる東北太平洋側に上陸したほか、十一月には福島県沖の地震による津波が発生し、養殖生産物に被害をもたらすなど、自然の脅威を改めて実感する一年でありました。

本会と致しましては、こうした自然の脅威に向き合いながら三陸の豊かな漁場を最大限活用し、今後とも漁業士会活動を活発化させてまいります。また、漁業士一人一人におかれましては、自らの知識と技術を活かしながら復興に向けた役割を果たしていくとともに、漁業を担う若い世代に受け継ぎ、漁業地域を活性化していくためにご活躍されることを期待しております。

最後になりますが、会報の発行にあたり、ご指導頂いた関係機関の皆様及び寄稿・編集に御協力頂いた会員の皆様にお礼申し上げますとともに、会員皆様の安全操業を祈念し、挨拶と致します。

前会長からのメッセージ

宮城県漁業士会前会長

菊地 幹彦

「海人」十六号発行にあたりお慶びを申し上げます。早いもので、東日本大震災から六年の歳月が過ぎました。我々漁業者は、津波により多くの物を失いながらも、行政をはじめ、民間ボランティア等、皆さんの支援をいただきました。ここに改めて感謝と御礼を申し上げます。

さて、私が会長として努めた平成二十六年・二十七年は、震災で活動が縮小していた漁業士会活動を少しずつ震災前の状態に戻すことを目標に取り組んでまいりました。そのような中、震災年に中止となった東北・北海道ブロック漁業士研修会並びに東日本女性漁業士交流会を平成二十六年六月二十六日・二十七日に本県が主催となって開催したところ、震災からの復興・復興に忙しい中、本県から多くの漁業士が参加いただけたことは何よりうれしい限りでありました。

今後も漁業士会活動が震災前の水準に戻り、浜のリーダーである漁業士を中心に活発な活動が行われることを切に願います。皆さまの引き続きの健闘をお祈りします。

新漁業士のご紹介

漁業士の認定

宮城県漁業士会事務局

平成二十八年六月十三日に県庁講堂において平成二十八年宮城県農業者・漁業士退任感謝状贈呈式及び認定証交付式が開催され、新たに指導漁業士五名が認定されました。

当日は四名の漁業士が出席し、知事から直接認定証と徽章が交付されました。これからの活躍を期待いたします。

○指導漁業士（五名）

阿部 正さん（ＪＦみやぎ歌津支所）
佐藤 一さん（ＪＦみやぎ雄勝町雄勝湾支所）

丹野 善一さん（ＪＦみやぎ石巻湾支所）
内海 秀一さん（ＪＦみやぎ石巻湾支所）
高橋 征信さん（ＪＦみやぎ松島支所）



新たに認定された漁業士

漁業士研修等の報告

平成二十八年度東北・北海道ブロック漁業士研修会

宮城県漁業士会

指導漁業士 小野寺芳浩

平成二十八年十月二十四日と二十五日の二日間にわたり、東北・北海道ブロック漁業士研修会が秋田県男鹿市で開催され、小野寺会長、西條副会長、高橋副会長が出席しました。

初日は「イワガキの漁場再生への取組」や「漁業就業体験実施について」等に関する講演が行われたほか、各道県の漁業士会の活動報告及び意見交換が行われました。意見交換会では、漁業就業者の減少と高齢化に対応するため、外国人の受入れも視野に入れた就業者対策等も今後必要となるといった意見があり、活発な意見交換を行うことができました。また、6次産業化などの先進的な取組や放射能問題に関して各道県から事例紹介も行われました。

続いて今年度の全国漁業士連絡会議でのディスカッションテーマである「若手漁業者（女性を含む）の育成及び活動に関する取組とその課題・問題点」については、東北・北海道ブロックから「漁業者及び女性部員の資質向上」を提案することとなりました。また、来年度の全国漁業士連絡会議のディスカッションテーマとして、東北・北海道ブロックからは、「漁業者の確保・育成」を提案することとなりました。



研修会の様子（1日目）



真山神社での安全祈願の様子（2日目）

二日目の現地視察では、男鹿市北浦漁港の施設見学が行われました。その後、地元漁業者がハタハタ漁の始まる前に必ず祈禱を行う「真山神社」にて研修参加者全員の安全操業祈願を行いました。

来年度の東北・北海道ブロック漁業者研修会は山形県で開催されます。

平成二十八年年度東日本

女性漁業士交流会

宮城県漁業士会

指導漁業士 豊嶋恵美子

平成二十八年年度の交流会は八月二十五日と二十六日の二日間の日程で青森県八戸市にて開催され、須田指導漁業士、豊嶋指導漁業士が出席しました。

今年度の話題提供では、(有)静岡や専務取締役・だしソムリエの金子和歌子氏を講師に迎え、「水産物の活用、だしを活かす」といったテーマで講演が行われました。青森県では「短命県」脱出のため、平成二十六年から「だし」で減塩する「だし活」を開始しており、全国初の「だしソムリエ」がだしの魅力を伝える活動を行っているとのことでした。また、青森県で昔から生産されていたカタクチイワシの煮干しの他にも、大間のアラメ、八戸のイカやサバなど、地域の特産を使った新たな削り節などを開発、地元の大学とコラボレーションしたパッケージデザインの考案など、新たな取組が行われているとのことでした。調理中に余るアナゴの頭や骨を有効利用するためのヒントを得ることができました。

意見交換会では、「地球温暖化及び震災後の海洋環境の変化」、須田えみ指導漁業士から提案した「後継者不足と嫁姑問題」について意見が交わされ、どちらのテーマも東日本各地の漁業で大きな問題となっていることがわかりました。

続くグループ討議では、四～五人を

一つのグループとする四つのグループに分かれて討議しました。

私の参加したグループでは、「六次化について」をテーマに討議が行われました。六次産業化には、活動拠点の確保や、衛生面で保健所の認定などの課題があり、六次産業化を行うにあたっては、行政とも連携して課題解決が必要になるといった意見がありました。

交流会は一年ぶりに女性漁業士が再会し、喜びと新たな問題を分かち合える貴重な場となりました。また、他県の漁業者が自分と同じ問題も含め様々な課題を抱えながらも前向きに生産活動に取り組んでおり、力をいただくことができました。来年以降もぜひ参加させていただきたいと思います。



女性ならではの視点での活発な討議の様子



他県の女性漁業士と一緒に記念撮影

平成二十八年年度

全国漁業士連絡会議

宮城県漁業士会

指導漁業士 小野寺芳浩

平成二十八年年度の全国漁業士連絡会議は平成二十九年二月二十八日に農林水産省で開催されました。

当年度は水産庁の事務局で決定したテーマである「若手漁業者（女性を含む）の育成及び活動に関する取り組みとその課題・問題点」について議論がなされました。東北・北海道ブロックからは、代表県である秋田県から、「漁業者及び女性部員の資質向上」について報告がありました。また、後継者問

題についても議論があり、各都道府県の代表からは、漁業を継がせたくない人や継がせたい人など様々な意見がありました。

小野寺会長からは、平成二十八年年度第五十五回農林水産祭において、天皇杯を受賞した唐桑町浅海漁業協議会青年部の活動事例について報告がありました（トピックス参照）。

「次年度ディスカッションテーマ」については、各ブロックから「担い手確保・育成」や「漁村地域の活性化」などのテーマが提案されましたが、意見がまとまらず、最終的なテーマは、事務局一任の方向となりました。

今後ともこの会議を機に全国に組織された漁業士会との情報交換や連携が充実することを願っています。



全国漁業士連絡会議の様子

支部だより

● 北部支部 ●

岩手県漁業士会大船渡支部と 宮城県漁業士会北部支部の 交流会開催について

宮城県漁業士会

青年漁業士 鈴木 甲泰

平成二十八年八月二十三日に岩手県漁業士会大船渡支部と宮城県漁業士会北部支部の交流会が開催されました。

この交流会は、両支部の抱える様々なテーマに関する情報交換をおこない、その成果を生産現場に活かすとともに相互の親睦を深めることを目的として平成十一年度から始まったものです。交流会は平成二十二年まで毎年開催してきましたが、平成二十三年度および平成二十四年度は震災からの復旧・復興を優先し休止しておりました。

平成二十五年度に震災後はじめての交流会を気仙沼合同庁舎大会議室で実施、平成二十六年度は大船渡支部担当により新しくなった大船渡魚市場で開催されました。平成二十七年は再び気仙沼で開催し、北部支部担当で大谷海岸に臨むはまなす海洋館にて研修会と意見交換会を行いました。

通算で十六回目となる今回は、大船渡支部が担当となり、陸前高田市のキャピタルホテル1000を会場に、大船渡支部会員十二名、北部支部会員

七名、両県関係者や系統団体、市から十二名の計三十一名が参加しました。今年の交流会は例年と少し趣向を変えて参加者が多く発言できるように全体会議の形式ではなく、二つのグループに分けて実施されました。主な話題として、生カキの出荷、カキ殻の処理、ホタテ種苗（半成貝・地種）、ホヤ被囊軟化症、ワカメ種苗及び育成法、アカザラガイやザラボヤが挙げられ、有意義な意見交換の場となりました。

交流会の後には懇親会が行われ、コラボしてのイベント出展を談話するなど親交を深めました。次年度の交流会は北部支部が担当となって開催予定です。



交流会の様子

宮城県漁業士会北部支部の ホームページ開設について

宮城県漁業士会北部支部事務局

漁業士および漁業士活動の認知度の向上を目的に、宮城県漁業士会北部支部のホームページを開設し、平成二十九年三月一日より運用を始めました。

平成二十七年に開設したフェイスブックページが時事的な情報発信を主目的とするのに対して、今回開設したホームページでは組織や活動全体を俯瞰できる主に記録的な役割を担うものとして活用していきます。

また、事務局のある宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部のホームページに「漁業士とは」のページを作成し、宮城県漁業士会北部支部のホームページやフェイスブックページと相互リンクをつけることで、一般の訪問者にも目につきやすく、アクセスしやすい環境としました。

実際に運用する中では、有効な取り組みとそうでない取り組みがあります。蓄積されたノウハウは宮城県漁業士会、同中部支部、同南部支部と共有し、情報発信の高度化へと繋げていきたいと考えております。漁業士会がより魅力的で充実した活動となるよう努めていきたいと考えているところで

「漁業士とは」・宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部のホームページまたは次のQRコード参照



漁業士とは？



ホームページ



フェイスブック
ページ

● 中部支部 ●

震災から支部活動の 再開に向けて

宮城県漁業士会

指導漁業士 阿部 悟

新技術習得交流事業（先進地視察）

震災から六年が経過しました。各浜の漁船、漁具、漁港関連施設の復旧が進み、漁業生産量は徐々に震災前に戻りつつあります。漁業士会としても、震災以前と同様に地域振興の一助となる活動を再び実践する時期に來たと感じています。このため、新たに活動を実践する際に参考とすべき国内の最新の漁業活動、漁業に関する最新の知識、漁獲物の付加価値向上等に関する先進事例等を学んでいく必要があると

考え、震災前に実施していた漁業士研修事業を今年度から再開しました。

今回、視察テーマとしたのはナマコです。震災以降、各地でナマコ資源が増加しており、このナマコ資源を管理しつつ漁獲していこうと気運が漁業者間で高まっています。そこで、ナマコ資源の維持・増大に寄与する取組として、種苗生産や資源添加方法を習得すべく、ナマコ種苗生産の先進地である北海道函館市を視察しました。今回の視察により、ナマコ種苗生産及び資源添加方法のポイントを知ることができたことから、今後は本県の地先で取り組むナマコ資源の維持・増大に役立てていきたいと思っています。



北海道でのナマコ種苗生産施設の視察の様子

地元水産物の

消費拡大を目指す

宮城県漁業士会中部支部事務局

みやぎ水産の日と連携した

水産物展示即売会への参加

宮城県では、県産水産物の消費拡大を図るため「みやぎ水産の日」を制定し、毎月第三水曜日に水産物の魅力を発信する取組を行っています。

当支部では、平成二十七年一月から県東部地方振興事務所水産漁港部が「みやぎ水産の日」に合わせて実施する石巻合同庁舎内での水産物展示即売会に参加し、会員自らが消費者と接する対面販売を行いました。販売会では、会員各々が自ら生産した水産物の品質の良さ、魅力などを発信しました。

平成二十八年度は、四月の販売会に西條幸正指導漁業士、須田えみ指導漁業士、豊島恵美子指導漁業士が参加し、自ら生産した水産物の加工品である塩蔵ワカメやカキ佃煮等を販売しました。また、十二月には高橋陽一指導漁業士が活ホタテの販売に、平成二十九年二月には西條幸正指導漁業士が新物のワカメ等の販売を行いました。

平成二十七年からは毎月継続している当販売会には、石巻合同庁舎近隣の方々をはじめ、お越しいただいた多くの皆様にお買い求めいただき、たいへん賑わいました。

当支部では、引き続き当販売会への参加を広く会員に促し、「みやぎ水産

の日」には地元の漁業者の代表として、数々の美味しい県産水産物の魅力を発信していくよう努めてまいります。

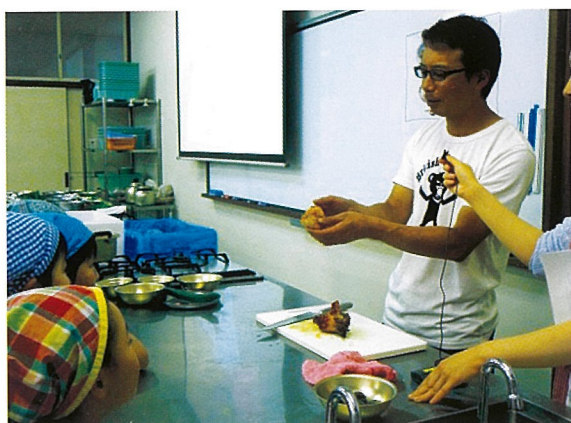


みやぎ水産の日での水産物展示即売会
ワカメッチャと共に販売

宮城学院女子大学魚食育への講師派遣

宮城学院女子大学の平本福子教授は、近年の家庭で進む魚離れを改善するため、小学生とその保護者を対象とした親子料理教室を毎月開催しています。

この教室では「宮城の魚を知る、触れる、味わう」をコンセプトに、県内で生産される魚介類の魅力を説明してから旬の魚を使った料理教室を行うことで、参加した親子に魚介類に関する知識と、美味しさを実感してもらい、今後の魚食のきっかけを提供しています。



ホヤの剥き方を教える佐藤指導漁業士

平成二十八年六月十八日に開催された当理教室では、講師として佐藤一指導漁業士が招かれ、旬のホヤについて、養殖方法のみならず、栄養成分や調理方法について講義しました。

佐藤一指導漁業士が持参したホヤを用いた料理教室の後には、参加した親子から、「ホヤが新鮮で美味しかった」「これまで食べたことのない子供が初めて食べた」などの声が聞かれました。また、佐藤一指導漁業士の講義が楽しかったとの感想もいただき、ホヤを通して宮城の水産物の魅力を発信することができました。

魚食普及活動の実施

宮城県漁業士会南部支部事務局

中学校での魚食普及活動

南部支部では地元の小中学生を対象に、漁業への理解を深めてもらうとともに安全安心な水産物のおいしさを伝えたいと考え検討を重ねておりました。このような中、塩釜市浦戸中学校から「地元産品であるノリの勉強をしたい」との要望があり、南部支部漁業士による魚食普及活動が実現しました。

平成二十八年三月十五日に塩釜市浦戸中学校で、二年生九名、教員四名を対象に南部支部の千葉周副支部長が



カッパを着て説明する千葉副支部長

宮城県のノリの生活史や養殖・加工の工程について、実際に養殖で使用するノリ網や生ノリを見せながら説明するとともに「みやぎ水産の日」の紹介を行いました。

普段の授業では聞けない話に参加した生徒から質問が殺到し、大きな手ごたえを感じました。また、同中学校では得られた知識を消費者へ伝えるため、千葉周副支部長と池袋の宮城ふるさとプラザで県産品のPRを行っております。

今後は、他の学校とも連携し、ノリやカキ等南部地区ならではの魚食普及活動に積極的に取り組んでいく予定としております。

塩釜仲卸市場での魚食普及活動

消費者の魚離れによる水産物の消費減退が叫ばれる中、南部支部では「水産物を身近に感じてもらうながら、南部地区の主要な養殖種であるノリやカキの旬を伝えたい」と考え、一般の方々を対象に、水産業への理解を深めてもらうとともに、安全安心な水産物のおいしさを伝えようと魚食普及活動に取り組みました。

平成二十八年十一月五日に塩釜仲卸市場のキッチンスタジオを会場に「漁業のプロがおすすめ！みやぎの旬を体験しよう！」と題して魚食普及活動を開催しました。当日は、摘みだての生ノリを使った「ノリ汁」を振る舞ったほか、漁業士によるワークショップを実施しました。



漁業士による直接販売

ワークショップでは一般の方々に参加を呼びかけて、ノリやカキの生活史、養殖・加工の工程、栄養についての説明を行うとともに、漁業者ならではの苦労話や安全安心な食材提供のための取組などを話しながら、「ノリのあぶり体験」や「カキの簡単な食べ方紹介」を行いました。漁師ならではの興味深い話に、参加した方々から質問が殺到し、大変有意義な魚食普及活動となりました。

今後も南部支部では、一般の方々に水産業への理解を深めてもらうとともに、安全安心な水産物のおいしさを伝えるために様々な形で魚食普及活動に取り組んでいく予定としております。



ワークショップの様子

唐桑町浅海漁業協議会

青年部が天皇杯受賞

宮城県漁業士会事務局

唐桑町浅海漁業協議会青年部は、平成二十七年九月十七日に第十四回宮城県青年・女性漁業者交流大会で最優秀賞を獲得し、平成二十八年三月一日、三月二日に開催された「第二十一回全国青年・女性漁業者交流大会」において宮城県代表として出場し、「多面的機能・環境保全部門」で農林水産大臣賞を受賞しました。その後行われた平成二十八年度第五十五回農林水産祭において、過去一年間の農林水産祭参加表彰行事で農林水産大臣賞を受賞した中から特にその内容が広く社会の賞賛に値する業績について選定される天皇杯等三賞のうち、最高賞である「天皇杯」に輝きました。

地域の子供達の海離れが進む中、地元小学校の学習支援授業において十年間にわたりカキの生産から販売までを自ら体験し、ふるさとのすばらしさを認識させる活動を行い、総合的な体験型の学習プログラムを構築し、将来的な漁業後継者の育成や漁業への理解者の創出という効果が期待されることが評価されました。

誠におめでとうございます。



農林水産祭式典での記念撮影



受賞の様子

熊本地震への

義援金について

宮城県漁業士会事務局

今年度の総会においてお諮りした熊本地震への義援金について、漁業士の皆様からのご理解をいただき、各支部を通じて九万三千円の義援金が集まりました。平成二十八年十月二十七日に熊本県漁業士会を通じて支援を行い、熊本県漁業士会会長からは、菊地前会長と小野寺会長へお礼の連絡がありました。

漁業士の皆様には本取組に対しご賛同いただき、この場を借りて改めて感謝申し上げます。ご協力ありがとうございます。

青年漁業士

養成講座について

宮城県漁業士会事務局

宮城県が主催する「青年漁業士養成講座」が平成二十八年六月二十九日・三十日に宮城県水産技術総合センターで、八月二十九日・九月八日に宮城県水産技術総合センター・気仙沼水産試験場で開催されました。

今回は参加者の参加のし易さを考慮して年二回の開催となりました。受講者は両会場併せて十四名もの参加となり、最新の漁業情報や漁家経営のあり方、漁業士会会長からの基調講演等の講義を熱心に受講していました。



青年漁業士養成講座の様子
会場：気仙沼水産試験場



青年漁業士養成講座の様子
会場：宮城県水産技術総合センター

本講座を受講された方には、宮城県青年漁業士の認定資格が与えられます。認定後のご活躍を期待しています。

○受講者の方々

伊藤 広樹さん（ＪＦみやぎ大谷本吉支所）
菅原 洋司さん（ＪＦみやぎ志津川支所）
菅原 学さん（ＪＦみやぎ志津川支所）
工藤 忠司さん（ＪＦみやぎ志津川支所）
小野 具大さん（ＪＦみやぎ志津川支所）
佐藤 翼さん（ＪＦみやぎ志津川支所）
大森 庄洋さん（ＪＦみやぎ志津川支所）
坂下 隆さん（ＪＦみやぎ河北町支所）
阿久津英法さん
（ＪＦみやぎ雄勝町雄勝湾支所）
豊嶋 純さん（ＪＦみやぎ石巻地区支所）
中井 裕紀さん（ＪＦみやぎ石巻湾支所）
本田 孝彦さん（ＪＦみやぎ石巻湾支所）
津田 大さん（ＪＦみやぎ矢本支所）
水間 健二さん（ＪＦみやぎ塩釜第一支所）

漁業士会参加行事

宮城県漁業士会では平成二十八年度に以下の行事に参加・協力をいたしました。

漁業士認定検討会

宮城県が実施する漁業士を認定するための検討会。会長が検討委員として対応しました。

宮城県漁業協同組合青年部総会

来賓として会長が出席しました。

第十五回宮城県青年・女性漁業者交流大会

本大会は県内の青壮年・女性グループが参加し取組事例等を発表する大会。会長が来賓として出席しました。

水産青年フォーラム

この催しは宮城県漁業協同組合青年部が主催するグループ討議の場であり、5名の漁業士を助言者として派遣した他、会長が来賓として出席しました。

退任漁業士のお知らせ

平成二十七年年度末までに認定期間が終了し、退任されました方は次のとおりです。

指導漁業士

○平成二十七年年度末任期満了

木村 忠良さん（ＪＦみやぎ表浜支所）
高橋 文生さん（ＪＦみやぎ石巻湾支所）
西條 幣夫さん（ＪＦみやぎ北上町十三浜支所）
土佐 勝彦さん（ＪＦみやぎ宮戸支所）

また、遠藤勝彦さん（ＪＦみやぎ志津川支所）が事情により、今年度退任されました。

これまでの漁業士としての活動に感謝申し上げます。

『みやぎ水産の日』×

宮城県漁業士会

平成二十六年十月から宮城県により、県産水産物の消費拡大を図る取組の一環として、毎月第三水曜日を「みやぎ水産の日」と制定し、宮城県漁業協同組合、市場関係者や販売店等と連携して、水産物の魅力を発信する取組をスタートしています。

これに併せ、宮城県漁業士会としても各支部で「みやぎ水産の日」にあわせた販売会などの取組を行っています。今後とも宮城県漁業士会は「みやぎ水産の日」と連携した取組を展開していきます。



海人では、皆様からの原稿をお待ちしています。内容は自由で、400字詰め原稿用紙1枚から2枚にまとめ、漁業士会事務局までお送りください。

海人 編集委員（敬称略）

北部委員 小野寺芳浩
中部委員 西條 幸正
南部委員 高橋 征信
（委員長）